

### 3 年齢階級別の自殺者数の推移

年齢階級別の自殺者数の推移について、自殺統計をみると（第1-5図）、全体的に、60歳以上（注）が最も多く、50歳代、40歳代が多くなっている。

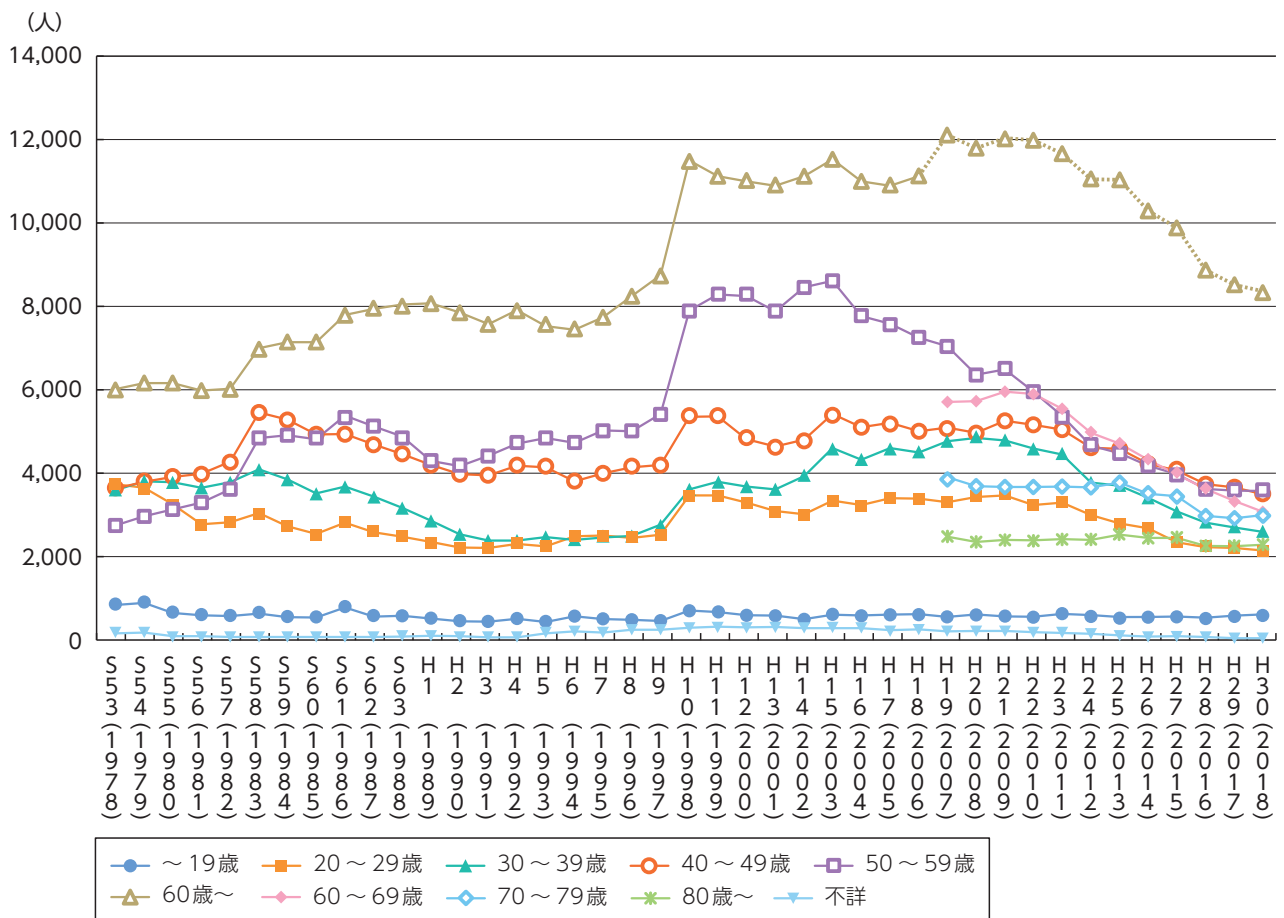
年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-6図）、平成10年の自殺者数急増に伴い自殺死亡率も上昇したが、近年は全体的に低下傾向にある。

40歳代、50歳代、60歳以上は、ピーク時から大幅に低下している。一方、20歳未満では平成10年以降おおむね横ばいで、20歳代や30歳代は、ピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さくなっ

ている。また、40歳代、50歳代、60歳以上は、急増以前の水準に低下している一方、20歳未満、20歳代、30歳代は急増以前の水準に戻っていない。

さらに、男女別にみると、男性は、40歳代、50歳代では15年まで上昇傾向にあったが、16年以降は低下傾向にある。一方、20歳代が上昇傾向にあったが、23年以降は低下を続けており、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降は低下している。女性は、20歳代、30歳代、40歳代では上昇傾向にあったが、24年以降は低下傾向にある。

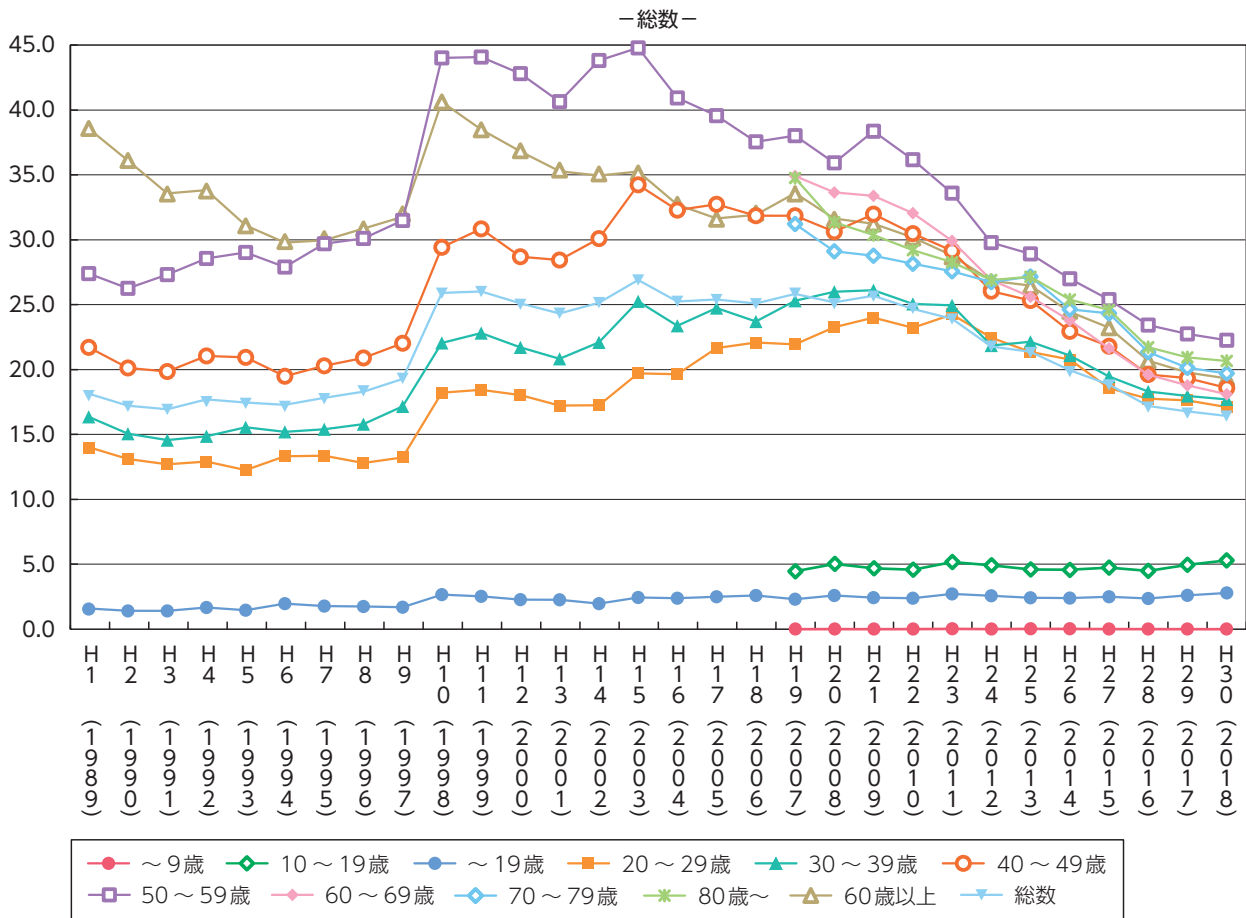
第1-5図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移



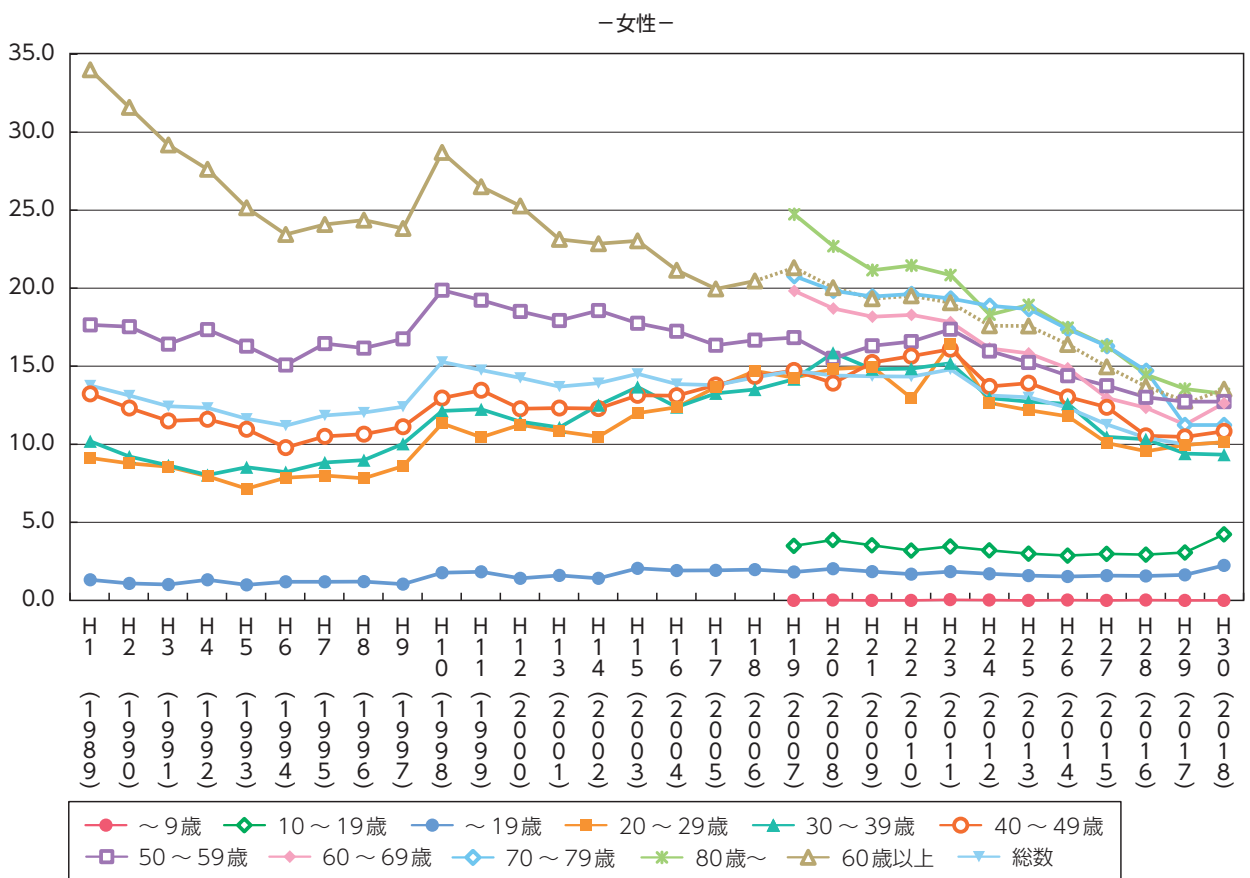
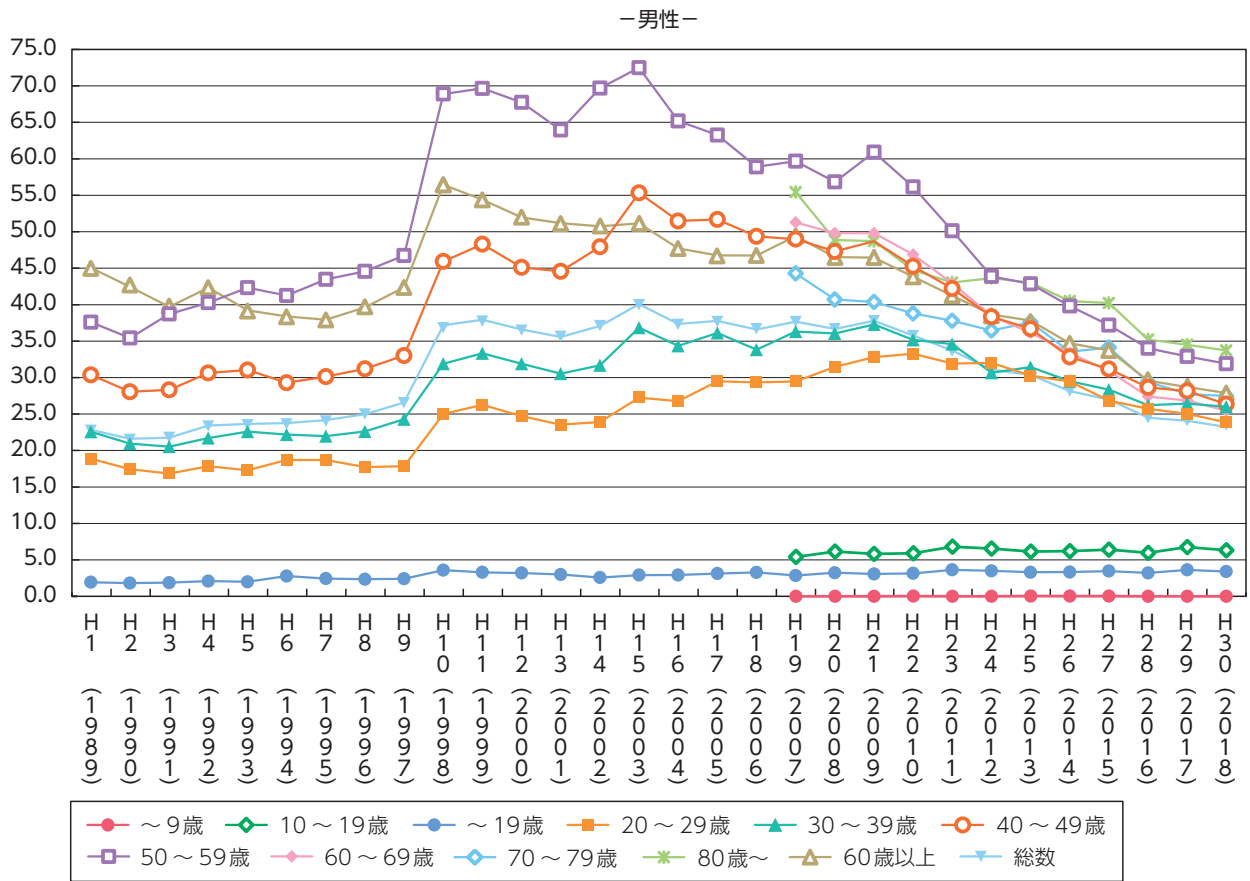
注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-6図 年齢階級別の自殺死亡率の推移



資料：警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」より厚生労働省自殺対策推進室作成



資料：警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-7表）、10～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性で

は10～44歳において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも15～29歳で死因の第1位が自殺となっている。

第1-7表 平成29年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

### 総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	100	1.9	22.9	悪性新生物	99	1.8	22.7	不慮の事故	51	0.9	11.7
15～19歳	自殺	460	7.8	39.6	不慮の事故	232	3.9	20.0	悪性新生物	125	2.1	10.8
20～24歳	自殺	1,054	17.8	52.1	不慮の事故	335	5.7	16.6	悪性新生物	174	2.9	8.6
25～29歳	自殺	1,049	17.5	46.1	不慮の事故	288	4.8	12.7	悪性新生物	269	4.5	11.8
30～34歳	自殺	1,280	18.6	39.3	悪性新生物	616	9.0	18.9	不慮の事故	262	3.8	8.1
35～39歳	自殺	1,366	17.8	28.8	悪性新生物	1,145	14.9	24.1	心疾患	429	5.6	9.0
40～44歳	悪性新生物	2,649	28.5	30.0	自殺	1,628	17.5	18.5	心疾患	991	10.7	11.2
45～49歳	悪性新生物	4,764	51.2	34.0	自殺	1,872	20.1	13.4	心疾患	1,769	19.0	12.6
50～54歳	悪性新生物	7,267	90.5	38.1	心疾患	2,393	29.8	12.6	自殺	1,830	22.8	9.6
55～59歳	悪性新生物	12,211	162.7	44.4	心疾患	3,377	45.0	12.3	脳血管疾患	2,022	26.9	7.3
60～64歳	悪性新生物	21,238	274.5	47.3	心疾患	5,424	70.1	12.1	脳血管疾患	3,147	40.7	7.0

### 男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	59	2.1	21.4	悪性新生物	57	2.1	20.7	不慮の事故	35	1.3	12.7
15～19歳	自殺	337	11.1	41.6	不慮の事故	187	6.2	23.1	悪性新生物	70	2.3	8.6
20～24歳	自殺	773	25.4	52.7	不慮の事故	272	9.0	18.5	悪性新生物	113	3.7	7.7
25～29歳	自殺	754	24.6	48.7	不慮の事故	225	7.3	14.5	悪性新生物	135	4.4	8.7
30～34歳	自殺	944	27.0	43.8	悪性新生物	258	7.4	12.0	不慮の事故	204	5.8	9.5
35～39歳	自殺	1,033	26.4	33.6	悪性新生物	469	12.0	15.3	心疾患	333	8.5	10.8
40～44歳	自殺	1,202	25.5	21.8	悪性新生物	1,082	22.9	19.7	心疾患	768	16.3	14.0
45～49歳	悪性新生物	2,094	44.4	23.4	心疾患	1,421	30.1	15.9	自殺	1,378	29.2	15.4
50～54歳	悪性新生物	3,613	89.3	29.3	心疾患	1,932	47.7	15.7	自殺	1,317	32.5	10.7
55～59歳	悪性新生物	6,873	183.3	37.1	心疾患	2,746	73.2	14.8	脳血管疾患	1,448	38.6	7.8
60～64歳	悪性新生物	13,526	354.3	43.5	心疾患	4,296	112.5	13.8	脳血管疾患	2,217	58.1	7.1

### 女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	42	1.6	26.1	自殺	41	1.6	25.5	不慮の事故	16	0.6	9.9
15～19歳	自殺	123	4.3	35.0	悪性新生物	55	1.9	15.7	不慮の事故	45	1.6	12.8
20～24歳	自殺	281	9.8	50.5	不慮の事故	63	2.2	11.3	悪性新生物	61	2.1	11.0
25～29歳	自殺	295	10.0	40.5	悪性新生物	134	4.6	18.4	不慮の事故	63	2.1	8.6
30～34歳	悪性新生物	358	10.6	32.5	自殺	336	9.9	30.5	不慮の事故	58	1.7	5.3
35～39歳	悪性新生物	676	17.9	40.4	自殺	333	8.8	19.9	心疾患	96	2.5	5.7
40～44歳	悪性新生物	1,567	34.3	47.3	自殺	426	9.3	12.9	脳血管疾患	254	5.6	7.7
45～49歳	悪性新生物	2,670	58.3	52.6	自殺	494	10.8	9.7	脳血管疾患	400	8.7	7.9
50～54歳	悪性新生物	3,654	91.8	54.4	脳血管疾患	546	13.7	8.1	自殺	513	12.9	7.6
55～59歳	悪性新生物	5,338	142.2	59.2	心疾患	631	16.8	7.0	脳血管疾患	574	15.3	6.4
60～64歳	悪性新生物	7,712	196.8	55.9	心疾患	1,128	28.8	8.2	脳血管疾患	930	23.7	6.7

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-8表）、15~34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国（G

7）では日本のみであり、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

**第1-8表 先進国の年齢階級別死亡数及び死亡率（15~34歳、死因の上位3位）**

	日本 2015				フランス 2014				ドイツ 2015				カナダ 2013			
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率
第1位	自	殺	4,132	16.3	事	故	1,985	12.9	事	故	1,724	9.0	事	故	1,868	19.6
第2位	事	故	1,633	6.4	自	殺	1,224	7.9	自	殺	1,426	7.5	自	殺	1,012	10.6
第3位	悪	性	1,300	5.1	R00-R99※		966	6.3	悪	性	1,033	5.4	悪	性	513	5.4

	アメリカ 2015				イギリス 2015				イタリア 2015				韓国（参考） 2015			
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率
第1位	事	故	34,005	38.7	事	故	2,596	15.3	事	故	1,342	10.5	自	殺	2,237	16.3
第2位	自	殺	12,438	14.1	自	殺	1,255	7.4	悪	性	794	6.2	事	故	1,152	8.4
第3位	殺	人	9,593	10.9	悪	性	1,060	6.3	自	殺	530	4.1	悪	性	835	6.1

※ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10回修正版）の第18章「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に該当するもの

注）「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡数をいう。

資料：世界保健機関資料（2018年9月）より厚生労働省自殺対策推進室作成